

法人理念	社会は、一人ひとりが集まることで形成される集団です。その地域社会で共に暮らししていく力を育むために、私たちは「できた」「わかった」を増やす集団療育を実施しています。そして、障害のある子どもが安心して生活できる地域社会の発展に貢献することを目指しています。私たちは、社会に適応する力や自立して生活する力を伸ばし、子どもとその家族の健康・安全・尊厳を重んじる療育を提供します。体づくり、学習、集団参加を基本としたプログラムを通じて、療育支援に取り組んでいます。また、子どもたちが適応能力を伸ばし、社会参加できるよう、幼児期から早期に療育を行います。子どもたちは、経験を重ね、考えたり工夫したり、試行錯誤を繰り返しながら多くのことを学んでいます。同時に、模倣学習や言語学習などを通して脳の活動水準を高め、より高度な人間らしい行動を習得できるようになります。しかし、発達に凸凹がある場合、理解力や経験する力、適応力を高めるスピードが遅くなり、同学年の子どもたちとの成長の差が生じることがあります。また、社会のルールにおいて、ルールを守ることが難しかったり、不適切な行動を取ってしまうことで、集団生活の中でトラブルが生じることもあります。そのため、早期療育の段階で、集団生活に適応する力をしっかりと育てていくことが重要です。私たちは、体を動かし脳を活性化させ、療育者と一緒に努力する経験を積み重ねることで、「集団に適応する力」「学習や言語の概念」「身体づくり」の育成に力を入れて療育を行ってまいります。		
支援方針	1. 「できた」「わかった」を積み重ねる支援 子どもたちが小さな成功体験を積み重ねることで自信を育み、成長を実感できる療育を実施します。個々の発達段階に応じたプログラムを提供し、子どもたちの「できる力」を引き出します。 2. 社会性と自立を育む支援 子どもたちが社会のルールや集団生活に適応できる力を養うことを目指します。体づくり、学習、言語発達、集団参加のプログラムを通じて、社会で自立して生きる力を育成します。 3. 安心できる環境づくり すべての子どもが安心して生活できる環境を整えます。子どもやその家族に寄り添い、心身ともに健やかな成長を支える療育を提供します。 4. 家族と地域社会との連携 子どもたちが地域社会の中で安心して生活できるよう、家族や地域と連携した支援を行います。地域の発展に寄与する療育を通じて、子どもたちの社会参加を促進します。 5. 健康と尊厳を守る支援 子どもたちの健康と安全を最優先に考え、一人ひとりの尊厳を重んじた支援を行います。療育者としての専門性を高め、安心して頼れる存在を目指します。		
営業時間	9時00分から18時00分まで	送迎実施の有無	無

プログラム	支援内容（5領域との関連性）		
リズム歩行	一定のリズムで動くことにより、身体と心のバランスを保つ「行動リズムの調整」、音や動作に意識を向け続ける力を養う「集中力の向上」、一定時間活動を続ける体力と意識を育てる「持続力の向上」、他者と動きを合わせたり、指示に従ったりする力を身につける「適応力の強化」を目的として行います。集団で行う活動では、走る、止まる、手を叩く、手を繋ぐといった基本的な動作に加え、円ダンスや模倣を取り入れて、楽しく歩行を行います。 ◆関連領域：健康・生活、運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性		
集会	子どもの興味を引く魅力的な教材や楽しい手遊び、遊び歌を次々に提示します。歌やリズムに合わせた動きを練習することで、集中力や模倣力を育み、繰り返しの歌詞や動作で発語を促し、言葉を学びます。座位の保持が難しい子どもには、座面にすべり止めを貼ったり、ひじ掛けのある椅子を使用するなど、個々に合った椅子を提供します。感覚欲求が強い子どもには、感覚グッズを持たせるなど、個別のサポートを行っています。また、子どもたちの発達段階に応じて内容を変え、楽しく取り組めるよう工夫しています。 ◆関連領域：認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性		
学習	発達段階や個々に合わせた学習教材を用意することで、飽きることなく自分の好きなものや得意なものを見つけることができます。また、指先を使った巧緻動作や手と目の協調運動、左右の協調動作を高める教材を中心に取り入れ、学習を進めます。脳神経を最も活性化させるのは学習です。幼児期は学習指導の適期と言えます。 ◆関連領域：健康・生活、認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性		
『動』の活動活動	「動」の活動は、子どもたちの身体的成長と運動能力の向上を目指す重要な支援活動です。感覚統合療法を取り入れ、ボディイメージの向上や筋力強化を図ります。また、粗大運動を通じて身体を動かすことで、集中力や協調性を高めることができます。例えば、固有受容覚や前庭覚へのアプローチを通じて体幹を強化するために、スイングを取り入れた活動設定を行い、子どもたちが楽しんで積極的に参加できるようにします。これらの活動は、子どもたちが自分の体をコントロールする力を養うことに繋がります。個別の体力や運動能力に合わせた支援を行い、無理なく参加できるように配慮します。達成感を感じられるようにほめ、次回へのモチベーションを高めます。「動」のプログラムは、1つの行動を続けることが苦手な子どもたちに対し、身体を意識して動き続けるトレーニングの場でもあります。 ◆関連領域：運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性		
『静』の活動制作	「静」の活動は、子どもたちの集中力、自己表現能力、そして社会性の向上を目指した活動です。静かな環境で行う作業や活動を通じて、感覚や認知力を育むことを目指します。また、同一姿勢を保ち続けることは、体の動きを止めることが苦手な子どもたちにとって、あらゆる指導において必要なトレーニングです。制作活動では、子どもたちが感性を豊かにし、創造力を発揮できるよう支援します。季節に関連したテーマを取り入れ、季節感を感じながら作品作りに取り組むことで、集中力や細かな作業への忍耐力を養い、自己表現を学び、達成感を得られるようサポートします。ソーシャルスキルトレーニング（SST）を取り入れた活動では、子どもたちが日常生活に必要な社会的スキルを学び、実践できるように、ロールプレイやシミュレーションを通じて対人関係を築く方法を学びます。例えば、挨拶の仕方や感謝の気持ちを表す方法、順番を守ることの重要性を体験的に学びます。これにより、子どもたちは自分自身の社会的な立ち位置や適切な行動を理解し、実生活での適応力を高めることができます。これらの「静」の活動を通じて、子どもたちは自己表現の方法を学び、社会性を身につけることができます。また、集中力や問題解決能力を高め、日常生活に役立つ能力を向上させることができます。 ◆関連領域：健康・生活、運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性		
給食・おやつ	「給食」の時間は、周りの子どもたちと一緒に食べることで「みんなで食べるおいしい」と感じられる環境作りから始めます。食事量については、管理栄養士と共に献立を作成し、必要な摂取量を提供しています。丸飲みや口いっぱいになることがないよう、必要に応じて職員がサポートし、咀嚼を促したり、スプーンやフォークの使い方など、食事のマナーについても支援します。偏食や食べムラがある子どもには、食べる楽しさやチャレンジ精神を育むために、提供方法や視覚的支援を工夫し、食べられるものを少しずつ増やしていけるようサポートします。「おやつ」の時間は、子どもたちが食事に対する関心を高め、自分で選ぶ楽しさや自立心を育むことを目的としています。この活動を通じて、食育の要素を取り入れ、子どもたちの自立心や主体性を育むことを目指します。子どもたちが自分で食べたいおやつを選ぶ場面を設け、選ぶ楽しさと、自分で選んだものを大切にすることを意識を養います。また、順番に選ぶことで集団のルールや他者への配慮を学ぶ機会を作ります。食べ終わった後は、片付けを通じて後片付けの重要性を学び、責任感や自己管理能力を育てます。「給食やおやつ」の活動は、ただ食べるだけでなく、食を通じて学びや気づきを得る大切な時間です。 ◆関連領域：健康・生活、認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性		

家族支援	療育で得た成功体験を保護者と共有し、家庭での困りごとの改善に繋がります。また、保護者の不安に寄り添い、子どもの特性や課題を理解するために必要な情報提供や相談対応を行います。地域資源の活用を支援し、家族全体が安心して子どもの成長を支えられる環境作りを目指します。	移行支援	園や他事業所と連携し、子どもが地域社会で自立して生活できる力を育むことを目指します。支援計画の共有や情報交換を通じて、一貫性のある支援を提供します。
地域支援・地域連携	地域連携では、地域のイベントへの積極的な参加や地域資源の活用を通じて、子どもたちが地域社会とつながる機会を提供します。地域行事を通じて社会適応力を育むとともに、地元住民との交流を促進します。また、公共施設や地域サービスを活用し、子どもや家族が支援を受けやすい環境を整えます。地域全体で子どもの成長を支える仕組みづくりに貢献します。	職員の質の向上	定期的な研修や情報共有を通じて、療育プログラムの質を向上させ、適応力や自立を促進する支援方法を磨きます。また、子どもとその家族の健康・安全・尊厳を尊重する姿勢を職員間で共有し、信頼される支援を提供します。
主な行事等	季節の行事（プール、夏祭り、ハロウィンパーティ、クリスマス会など） 避難訓練		